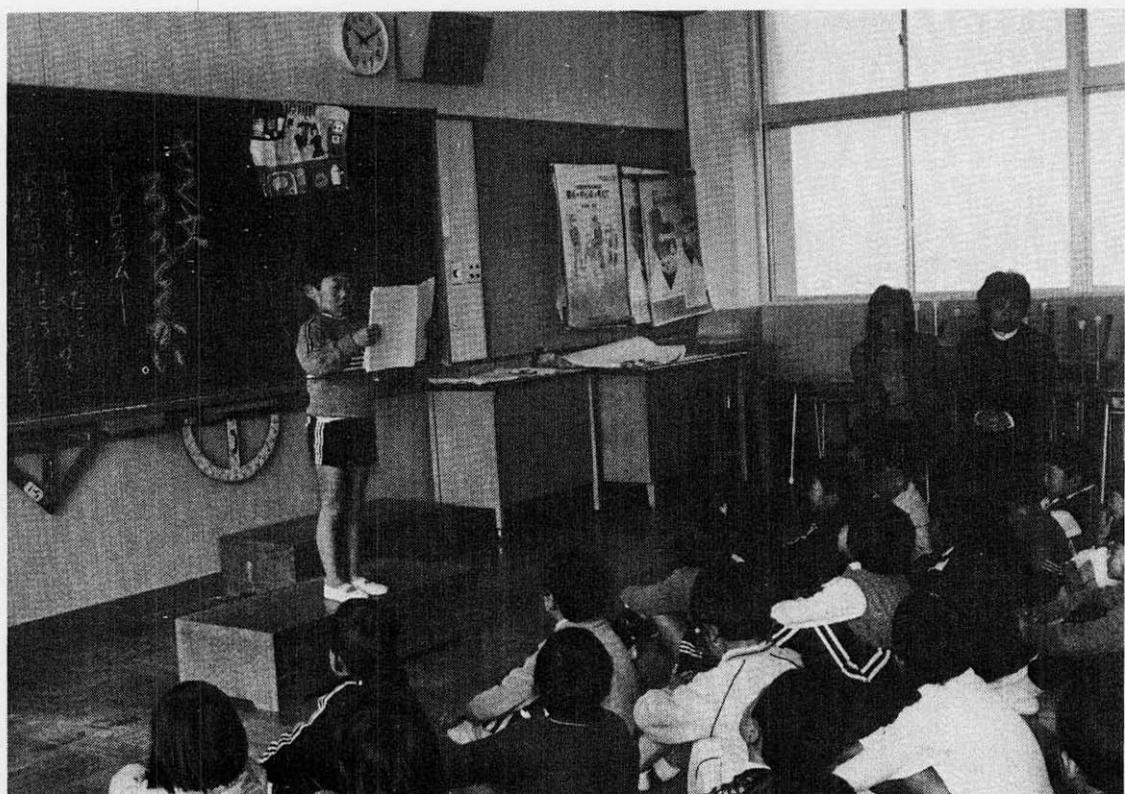


10月号

ゆつくり 大きな声で
読み出せば 友だちの目がさつと集まる
えんぴつを握り それぞれの思いを
紙に書きしるす
この作文を通して 生活をみつめ
表現する喜びを得た子らが
ここにいる

昭和60年10月1日
編集/発行
岡崎市教育委員会



(「生活をみつめる六ッ美の子」学年作文朗読会一六ッ美中部小)

経済大国日本を支える工業製品の優秀さとハイテク分野での目覚しい発展には、歐米諸国は、わが国の教育に対しても、強い関心を寄せている。

中曾根首相は、来年の東京サミットでは、教育問題をテーマにしたい意向を持っていると伝えられる。教育改革は今や世界的な課題となっている。

各国の教育が、学校制度・カリキュラム・教科書制度等にそれぞれ特色を持ち

ては、創造性の欠如を指摘されている。

この欠如の除去は二十世紀に向けての課題である。

欧米では、学級規模も小さく、一学級二、三十名を越す事はないと言ふ。また米国の教育は教え込むというより、むし

ては、創造性の欠如を指摘されている。

これを次元に当てはめてみると、一つの体系になる。記憶し知識をふやす力は一次元的であり、原理や法則を用いて

は二次元的であり、読んだり論議したりする力は三次元的であり、新

しいものを創造する力は四次元的であり、創造する力である。

これを次元に当てはめてみると、一つ

の体系になる。記憶し知識をふやす力は一次元的であり、原理や法則を用いて

は二次元的であり、読んだり論議したりする力は三次元的であり、新

しいものを創造する力は四次元的であり、創造する力である。

教育隨想 一

今、「学びの次元」を

白井通義



異なるつているのは、教育の果たす役割に対する歴史的・社会的必要性や、思想の違いが反映されているからである。

日本の教育は、古くは中国、新しくは

「教育の本当のねらいは何か。」「勉強が出来るようになるはどういうことか。」

が出来るようになるとはどういうことか。」

を考えている中で次のような結論を自分なりに得た。

学習には、基礎的な必要な知識がありこれは記憶しなければならないが、知識

のねらいや米国の教育のねらいを明確に説明できる。日本の教育は、一次元の拡大に非常に重点を置いているし、米国のは、四、五次元に重点を置いている。

そこにそれぞれの国の長所もあり問題点もある。

望ましい学習の姿は、一次元から五次元までの領域が等しく発展することである。

小・中・高・大学の各段階で記憶させる知識を授ける教育と、解釈・判断・意見を求める教育がバランスよく行われることである。

今、本校では、これを「学びの次元」とよび、実現に取り組もうとしている。

各教師は、教科書を教える事に慣れていない。自分の教科に当てはめると、何

かが二次元で、何が三次元なのか迷惑して

いるが、あるべき姿としては一応認めて

いるようである。

(岡崎女子高等学校長)

昔から「五分前の精神」ということが言われている。このことをお互いに心掛けるだけでも、他人に迷惑をかけなくて済むし、遅刻して気まずい思いをすることもなくなる。

欧米の先進文化を取り入れ、國力伸展のため、普及、発展させてきた。そして、教師は教え、生徒は学んで習うことが教育であると一般に考えられてきた。そのため自ら創り出すことより、出来るだけ多くのことを学び、記憶することが教育

の成果であり、教育の目標であつた。この結果、義務教育段階の児童の学力はユダヤ人と並んで世界最高と高く評価され

る一方、大学教育や学問研究分野においては、創造性の欠如を指摘されている。

欧米では、学級規模も小さく、一学級二、三十名を越す事はないと言ふ。また米国の教育は教え込むというより、むし

ては、創造性の欠如を指摘されている。

葵中学校長 大賀 真一 時を守る

私は、日ごろから「時を守る」場を

整える」「姿勢を正す」の三つを生活信

条として心掛けているつもりである。

中でも、時間厳守の励行は社会生活の

基本であるから、生徒を指導する前にま

ず全職員が実践することが先決であると

考え、学校ぐるみで努力しているところ

である。

チヤイム着席を生徒に求めるならば、

教師が早く教室に行き、延長授業をしないように努力している。

職員会議やP.T.Aなどの会合も、正時

間に必ず開始するというようなことも大切であり、配慮している。



甘言苦言

勤務

勤務

時代にさかのぼる。
和の初め、岡崎女学校（現岡崎北高校）

先生とバレーを始めたのは、昭和の初め、岡崎女学校（現岡崎北高校）時代にさかのぼる。

秋雨の降る伊賀弘正寺には人影はない。岡崎のバレー部育ての親、下村平八先生のお宅は弘正寺の隣にある。現在全日本バレー部協会参与、愛知県バレー部協会副会長、三河バレー部協会会長として、お忙しい毎日を送っているらしく、先生を訪ねた。

玄関に足を踏み入れるとまず、輝かしい栄光の証であるトロフィーの数々が目に留まつた。威圧されそうな思いでお話を伺つた。

「最初とバレーとの出会いは、昭和の初め、岡崎女学校（現岡崎北高校）時代にさかのぼる。

下村 平八氏

バレー部にかけて

ふるさとシリーズ

—この人に聞く—



「女学校の時にバレー部を始めたんですね。女子の生徒には一番バレー部が適していると思いましてね。」

大学時代にテニスで鳴らした先生のバレーボールにかけた人生が始まつた。

昭和十年、ジュニアの大会で初優勝し翌年、全国中等学校バレー部選手権大会で優勝、「家康以来の全国制覇」と市内が沸き上がつたという。

「一番印象に残つているのは、一九二一年に女学校とみくさ会（女学校の同窓会）が全国大会で同時優勝したことです。その時は岡崎の駅から菅生神社まで優勝パレードを盛大にやつたもんです。」

下村バレーの強さは、徹底した厳しい練習にある。

「とにかく徹底的にしばりましたね。全国大会で優勝するには徹底的に練習しなければダメですからね。生徒たちもよくついてきましたよ。」

先生は、試合に勝つてうれし泣きに泣いている選手を叱つたという。また、先生の厳しさを垣間見るお話を伺つた。

「戦後、選手が集まらなくて、娘たちにバレーをさせました。私は選手を叱る時、必ず娘たちから叱りました。自分の娘だからという甘えは許されません。そうしなければ、他の選手たちはついできませんよ。」

生は極端にフェイント戦法を嫌われた。敵は肉を切るだけではダメだ。骨を切つた。

と生徒たちに言い聞かせ、真正面から堂々と三段戦法で戦わせたそうである。矢作西小学校長も選手として活躍された。その中から、大きな大輪となつて開花した。

女学校時代、師範学校の学生や小中学

校の教師を集めチームを結成し、ご自分

も選手として活躍された。その中から、

現在の「岡崎のバレー部」を支え、

発展させてきた数多くの指導者たちが集

立つていったのである。

「勝つて喜ぶ前に練習で泣け！」

下村先生の強い信念には感服するばかりである。八十才にして、なお激しい闘志と情熱を抱いておられる先生に、大きな示唆をいたいたような気がする。

（住 所 岡崎市伊賀町字地蔵ヶ入四十一
生年月日 明治三十九年九月三日）

つての出勤」が必要である。時間的余裕とともに精神的余裕のある一日のスタイルこそ、充実した生活や快適な勤務の基盤であることを忘れないようにしたい。

老婆心ながら

矢作西小学校長

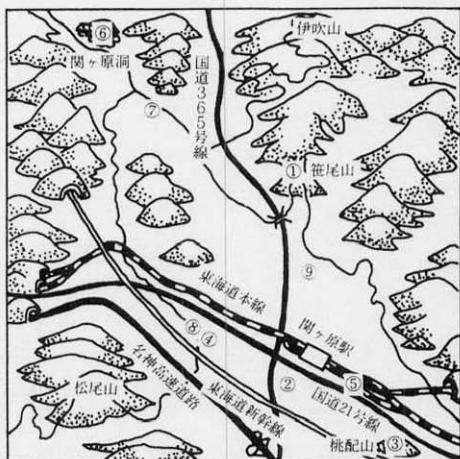
安藤 幸夫

教師の勤務は特殊であり、多面的である。その大半を占める「教える」という活動は、極めて人間的、創造的であることが要求される。したがって、時によつては医者であり、設計者であり、役者であり、易者であることが要請される。自己研修や授業研究が不可欠とされるゆえんである。



そうは言つても、ひとりよがりや自分の好みで日常を営みることは、もちろん恥ずべきことである。たつた一人のそれが学校全体の教育効果を薄めてしまうからである。そんなことを考えて、老婆心ながら勤務の「いろは」ともいうべき数点を掲げる。

- 1 出勤簿は毎朝必ず押印する。
- 2 子どもを教室で待つ毎朝であることには努める。学級通信を返すノートが机上に配つてあればなおよい。
- 3 言語環境としての教師のことばの洗練に努める。
- 4 週案は教育課程実践の証でもあり、子どもの記録の集積でもあると考える。
- 5 タテ・ヨコの連絡・報告を怠らない。



ゆかりの町を訪ねて

関ヶ原町

関ヶ原は、家康が天下を制した土地である。昭和五十八年には、岡崎市と「ゆかりの町」の提携をしている。

岐阜県の西端にあるこの地は、北に伊吹山地、南に鈴鹿山脈が走り、その間を主要幹線が通る交通の要衝である。自然是変化に富み、史跡に恵まれ、観光の町として活気にあふれている。

交通の要衝……古くは中仙道・伊勢街道・北国街道が通っていた。天武朝には、日本三古関のひとつ「不破の関」が設けられている。現在は国道二二号線・国道三六五号線・名神高速道路・東海道新幹線・東海道本線が通る要衝である。

町ぐるみの道德教育……幼稚園二園（一二二名）・小学校三校（九四一名）、中学校二校（五二三名）（いずれも昭和六十年度「関ヶ原の教育」による）と小じんまりとした町である。県・文部省より道德教育の指定を受け、町民憲章にのつとり、町民あげて取り組んでいる。

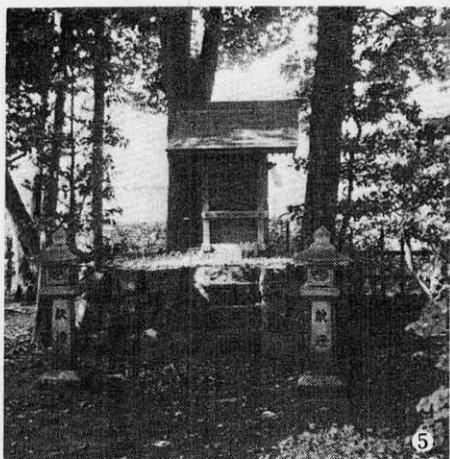
観光の町……関ヶ原鐘乳洞・伊吹山ドライブエー・関ヶ原メナードラン



③



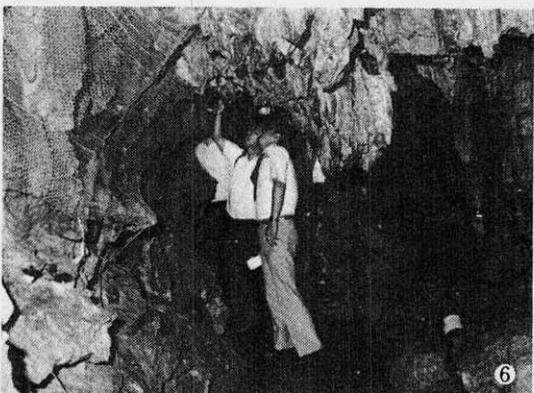
②



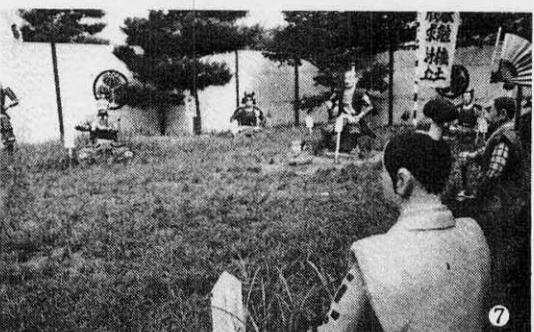
5



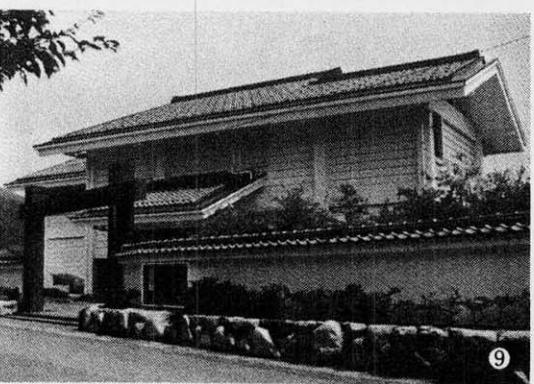
4



6



7



9

- ① 笹尾山の石田三成陣地碑
② 山田教育長を囲んで
③ 家康の本陣桃配山より三成陣営を眺める
④ 秋風や藪も畠も不破の関
⑤ マンボ・堀をつくった与市との祠
⑥ 人々の憩いの地のひとつ関ヶ原鐘乳洞
⑦ 関ヶ原ウォーランド内の家康本陣
⑧ 杉木立の連なる新旧の中仙道
⑨ 関ヶ原町の古今を語る歴史民族資料館

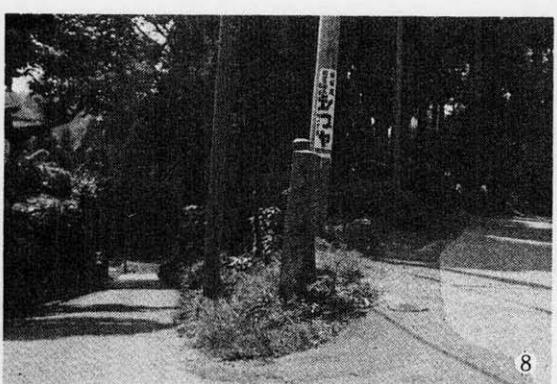
ド・関ヶ原ウォーランドなどの観光資源の整備・拡充が進んでいる。

この地は、昔、壬申の乱の折、大海人皇子が攻勢に転じたところであり、また家康は石田三成を中心とした豊臣方八万の大軍を破り、政権を不動のものにしたところである。桃配山の家康、笹尾山の三成をはじめ、両軍各将の陣地であったところには、史蹟碑が建てられている。民族資料館や関ヶ原ウォーランドでは、往時の姿を偲ぶことができる。

干害と大雪……関ヶ原は、高低差が大きい。昔、高台では年々干害が続きた人々を苦しめていた。この地に与市という人がいた。彼は、マンボと呼ばれる地下水道をつくり、堀（与市堀）をつくって、地下水となつて流れる雪どけ水を飲料水や田の水として供したという。人々は雨乞いをし、与市を神として祀り、生活を支えてきた。今、与市の祠は、町並の裏手にひっそりと建っている。

人々の屋根には、二重三重の雪止めが見られ、人々の行政への第一の要望は除雪対策であることからも、生活への影響の大きさをうかがわせる。

人口は、一万余。就業者の約半数は第二次産業に従事している。地元産業の振興と観光に力が注がれ、大理石加工・紡績・機械の工場を核として、産業面は活気に入り込んでいる。



8

教育日々



わあい、プールだ！

藤川小 藤井 明美

本校にもプールがやつとでき

た。今まではタッパーウエア株式会社のプールまで泳ぎに行つ

ていたが、今年からは自分の学校で泳げるのだ。子どもたちの

うれしさは格別である。

「プールがもうじきできるよ。」「うん、そうだよ。もう水が入

つててるよなっ。」「ちがうよ。あれは水色がぬつ

たるんで、水が入っているよ。うに見えるだけなんだよ。」「どうして知ってるの。」「だって、ぼく、プールのおじ

さん（工事関係者）と友達になつたもん。おじさんが教えてくれたんだよ。」「一年生の腕白坊主たちもいつ

の間にかおじさんと親しくなり

プールのできるのをたいへん心待ちにしていたのだ。

とうとう、完成！

「わあい。」

子どもたちの歓声は一際大きい。

緑と赤のプールサイド。水色の低学年用プール。田んぼの中

にあるプールが鮮やかに目に入つてくる。

いいよい水に入る。いつになく準備運動にも力が入る。

どの子もうれしさいっぱいだ。

「体に水をかけて。」「わあ、冷たい。」「わあ、冷たい。」「

「気持ちいいよ。」「しっかり水がかかったかな。では、静かに入りなさい。」「わあい。」「冷たいなあ。」「冷たくないよ。ねえ、気持ちいいよねえ。」

最後尾で友達の肩につかまり、ゆうゆうと泳いでいる子。

一人ひとりの顔は教室の中では見られない笑顔だ。どの子も

プールに入ることが大好きであ

る。夏休みのプール学習やプー

ル開放にも喜んで来て、楽しく

泳いでいる一年生である。

矢作中 伊藤 直也

「いよいよ明日は西三大会だ。私は、今日、A子に心からお礼

が言いたい。

入部当時、A子は、満足に泳

げなかつた。けれど、どんなつ

らい練習も決して休むことはな

かつた。インテーパル練習では

ひと言に水泳部といつても、ま

日本に涙を浮かべたA子をよく見

「きれいだね。大きい子たちのほうは深そうだね。」

それぞれ思つたことを言いな

がら水に親しんでいた。

「みんな肩をつかんで、電車ご

っこをするよ。」

「わあい。」

「脱線しないようね。出発！」

子どもたちはわいわい言いな

がら一列縦隊の電車ごっこ。水

の中ではなかなかうまく歩けな

い。手を離して転んでしまう子。

途中で切れあわてて走る子。

最後尾で友達の肩につかまり、

ゆうゆうと泳いでいる子。

一人ひとりの顔は教室の中で

は見られない笑顔だ。どの子も

プールに入ることが大好きであ

る。夏休みのプール学習やプー

ル開放にも喜んで来て、楽しく

泳いでいる一年生である。

矢作中 伊藤 直也

「いよいよ明日は西三大会だ。私は、今日、A子に心からお礼

が言いたい。

六年連続優勝することができ、

彼女たちと共に優勝カップでジ

ュースを味わうことができた。

かけたが、一度として、
「あがらせてください。」

しかし、この努力も空しく、
と言わなかつた。

三年生部員十二人のうちA子だけが三年間一度も試合に出場す

ることができなかつた。

「なぜ私が……。」

と、くじけそうになつたことも

何度もあつたにちがいない。で

も、そんな気持ちを顔にも出さ

ず、ただひたすら練習に打ち込

んだ。

このA子の姿。たとえ下積み

であつても縁の下の力持ちとし

てチームを盛り上げ、お互いを

高めようという気持ち——これ

が、矢中水泳部の魂だ。

「さあ、明日の西三大会もみん

なで勝ち取ろう！」

当日、葵中のプールで、必死

に泳ぎ、精一杯応援する生徒の

姿があつた。そして、幸いにも

六年連続優勝することができ、

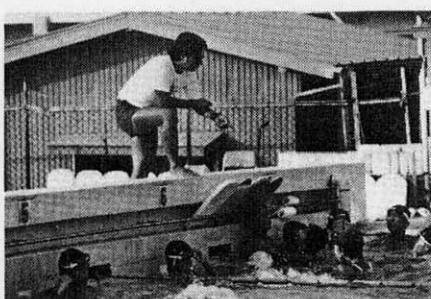
彼女たちと共に優勝カップでジ

ュースを味わうことができた。

今、六年間を振り返ると、本

当にすばらしい生徒たちに恵ま

れたと思う。また、こんなわが



「九十九本目」

「百本目」

「ラストだ！がんばれ！」

「やつたー！」

日の傾きかけたプールに大き

な声がこだましている。夏休み恒例の百メートルインターバル、

百本の終わつた瞬間である。

西三大会七年連続優勝目ざし

附小南門の坂道を登りきると正面に、黒地に白字をくつきりと見せた格調高い碑がある。『昭和二十年会』（現代表鈴木依治 竜美丘小長）の人たちが、三十年表彰を受けた記念行事のひとつとして建てたものである。

「われらこゝに学べり」

この地には、かつて愛知第二師範があつた。明治七年に岡崎養成校が創設されてより百余年、成校が創設されてより百余年、岡崎師範・第二師範と名称こそ変わつたが、教育者をめざしてこの地に学んだ先輩諸氏は、七千三百余名を数えるという。昭和二十年七月二十日、空襲によつて学舎は焼失する。この

最後の校舎で学び終えたのが、『二十年会』の人たちであつた。

仲間の半数以上を戦地に送つたほども激動の時代である。終戦で再会した時、いずれも体は疲労困憊。焼け跡で語り合い、九月二十五日に食堂で卒業式、翌月一日には訓導として戦後教育の第一線に立つたといふ。

師範校舎跡の運動場で、明るく伸びやかに遊んでいる子どもたちを見ていると、『二十年会』の人たちが、教育の核たりえた

女郎花やすすきが咲き乱れ、秋も一段と深くなつてきた。秋は行事の季節なりともいわれ、運動会、音楽祭、各種展覧会、おかげ子展等……。

とにかく行事が多いといつて愚痴も出易いが、反面、行事を通して、児童、生徒の情操面を育てる絶好の機会にしたいものである。



鈴虫の鈴のこぼるる櫻の枝

先日、あてもなくデパートを徘徊していると、どこからともなく

鈴虫の声がした。リーンリーン、リーン。

懐しさに誘われて近づいてみると、どこにもその姿がない。何とパソコンから

流れているのだ。いやはや味気ない世の中になつたものである。

百五十年前、猪から農作物の被害を防ぐため、鶏巣の農民が造つた貴重な歴史遺産が、水田の圃場整備の進行にともない失われつつある。

一部分だけでも保存したいと真剣に考

える人もいるが、農業の近代化の波は、

ここにも押し寄せている。

われらこゝに学べり



この本を

*この世この生	一西行・良寛	上田三四二
新潮社	明徳・道元一	¥ 1200
*日本人と中国人	陳舜臣	
祥伝社	¥ 880	
*モスクワ特派員報告	今井博	
岩波書店	¥ 430	
*恐怖のM8	中日新聞社会部編	
中日新聞本社	¥ 1300	

*腹鼓記	井上ひさし
新潮社	¥ 1400
天保8年、阿波徳島の奉行浜島庄兵衛が染物屋の娘お美代を見染めるが、意にならぬところから話が始まる。庄兵衛は無理難題を吹っかけ、果ては小松島大和屋の滅亡を策動する。狸一族が、大和屋茂右衛門に助けられた恩返しに化け術で対抗するが、事態は発展して、狐族まで巻き込んだ化かし合い合戦となる。	
人間と狸と狐が三つ巴で繰りひろげる珍談綺譚が、ユーモラスな井上式話術で展開する。	